

図-5.2.9.1 嘉陽周辺海域における海草藻場の利用状況についての調査位置

5.2.10 海域生物（海上ヤード周辺の海域生物）

海域生物（海上ヤード周辺の海域生物）についての調査は、設置前の現況を把握することを目的としているため、平成26年度の夏季及び冬季に実施しています。ここではこれらの調査結果も合わせて示しています。

(1) 調査項目

調査項目は、海上ヤード予定位置及び周辺における海域生物の生息・生育状況としました。

(2) 調査実施日

調査は平成26年度夏季（平成26年9月15、16日）及び冬季（平成27年1月29、30日）に実施しました。

(3) 調査位置

調査位置は、図-5.2.10.1に示す6地点（海上ヤード予定位置：St.2、St.3及びSt.5の3地点、周辺：St.1、St.4、St.6の3地点）としました。

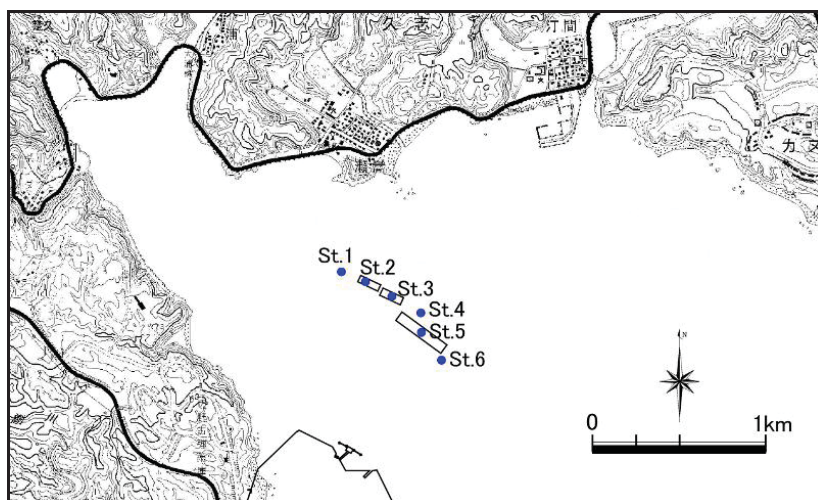


図-5.2.10.1 海上ヤード周辺の海域生物の調査位置

(4) 調査方法

調査方法は、1地点あたり30分程度の潜水土目視観察を行い、底生動物、サンゴ類、魚類、海藻草類を対象として、観察された種と種ごとの生息・生育数の概数（ランク）を記録しました。

5.2.11 海域生物（トカゲハゼ）

(1) 調査項目

調査項目はトカゲハゼの生息状況（成魚の個体数）としました。なお、着底幼稚魚の個体数については5～7月に、補足項目としている底質（粒度組成、地盤の軟らかさ）については春季に実施することとしており、本調査期間には実施していません。

(2) 調査実施日

調査は平成28年2月10日（冬季）に実施しました。

(3) 調査位置

調査位置は、既往調査においてトカゲハゼの生息が確認されている、図-5.2.11.1に示す大浦湾奥部（大浦川河口干潟及び二見地区地先干潟）としました。

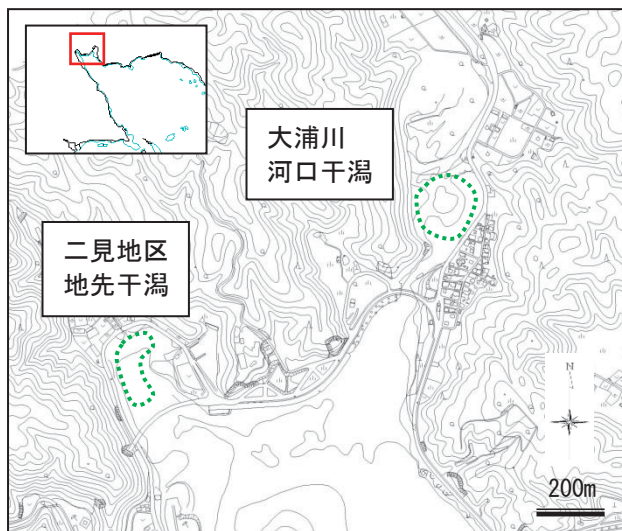


図-5.2.11.1 トカゲハゼの調査位置

(4) 調査方法

調査方法は、日中の干潮時に、陸上から双眼鏡を用いて干潟上に出現した個体数を記録した後、干潟上を踏査して巣穴（生息孔）を確認するとともに、GPSを用いてこれらの位置を記録し、地図上で生息範囲及び生息面積の概算を整理しました。